

「新版ロジスティック回帰分析」(第1刷)の正誤表
平成26年8月29日現在

ページ	場所	誤	正
p10	表1.5	タバコ喫煙本数(/ day)	タバコ喫煙量(g/day)
p10	表1.5	↓	(g/day)
p10	表1.5	152	252
p33	14行目	発症リスクに	発症リスクを
p84	12行目	「広く使われているが、SAS の」から14 行目「…デフォルト)」	「広く使われている。LOGISTIC では、CLASS 文でPARAM=GLM を指定するとpartial 法によるダミー変数が自動的に作成される。GLM やPEREG では、CLASS 文だけの指定で自動的に作成される」
p88	プログラム#3	input rd low age wtl race smoke pu nt ui tv	「ftv bwt」を削除
p90	最後の行に加える		なお、CLASS文のオプションでPARAM=GLMを指定するとpartial法によるダミー変数の指定が行える。
p91	プログラム#2	age1と age2	age2と age3に変更
p91	プログラム#6	class age_c(REF=FIRST)	削除
p98	13行	「、 つづいて・・95%信頼区間⑥」	削除
p110	図3.5	「ui=2」と「ui=1」	それぞれ「ui=1」、「ui=0」に変更
p112	下から9行目	0.1809	0.1858
p112	下から5行目	0.5183	0.5182
p112	下から5行目	0.0456	0.0457
p113	2行目	0.4569	0.8285
p113	図3.6	ui=2	ui=0
p121	表3.10の注	「胆嚢疾患 (gall)と肥満 (ob)」	「と肥満 (ob)」を削除
p145	11行目	就学次期	就学時期
p163	1行目	p=0.0002であった。	「p=0.0002(③)であった。」に変更
p163	2行目	「治療効果の推定値は1.299(0.486), p=0.0075(⑥, ⑦)であった。」	「治療効果の推定値は、無相関を仮定した場合には1.299(0.351), p=0.0002(④), 等相関を仮定した場合には1.299(0.351), p=0.0075(⑦)であった。」に変更
p163	4行目	1.4491	「1.449と1」に変更
p163	6行目	p=0.0075(⑨, ⑩)	p=0.0003(⑨)
p163	9行目	4.123	4.122
p176	表3.15	「age (60歳代=1, 70歳代=2, 80歳代=80歳代のβの値の ”-0.25”	「age (60歳代=6, 70歳代=7, 80歳代=8)」に変更
p176	表3.16		-0.25 を -2.25 に変更
p177	P 13.2	NOROW	NOROW
p181	5行目	モデル文の後に	「モデル文のオプションの”SCALE=N”を削除し、モデル文の後に」に変更
p189	P 15.2	DISTt	DIST
p240	2行目の式	左辺の分母のexp(β st) 次項のexp(β ctype(2)+β in)	それぞれexp(β ctype(2))、exp(β st+β in)変更 $\frac{\exp(\beta_{st} + \beta_{ctype(2)} + \beta_{in})}{\exp(\beta_{ctype(2)})} = \exp(\beta_{st} + \beta_{in}) = 1.988$
p240	表4.20 4行目、5行目	ct2, ct3, ct4	それぞれctype(2), ctype(3), ctype(4)に変更

「新版ロジスティック回帰分析」(第2刷)の正誤表

p240	2行目の式	左辺の分母のexp(β st) 次項のexp(β ctype(2)+β in)	それぞれexp(β ctype(2))、exp(β st+β in)変更 $\frac{\exp(\beta_{st} + \beta_{ctype(2)} + \beta_{in})}{\exp(\beta_{ctype(2)})} = \exp(\beta_{st} + \beta_{in}) = 1.988$
p240	表4.20 4行目、5行目	ct2, ct3, ct4	それぞれctype(2), ctype(3), ctype(4)に変更